

平成27年度

全国学力・学習状況調査の
結果について



海老名市立柏ヶ谷中学校

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「数学に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「理科に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 4
「生徒質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 5
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 6
(資料) 学習・生活習慣と学力との関係	P. 7



全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが、平成25年度から再び全国すべての小中学校が対象となりました。

なお、今年度実施された「理科」については、3年に一度実施されるものです。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒

- ・ 小学校第6学年
- ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

- (1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

- (2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

- (3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成27年4月21日(火)



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域では、日々の学習の成果が多くの部分で見られます。今後も継続・発展させていきたい学習活動です。
- 漢字を書くことに関して定着が見られます。
- 敬語の使い方に関しては、定着が図られています。
- 単語の類別については、比較的理解しています。

《努力を要する所》

- 文脈に即して漢字を正しく読む力に課題があります。
- 表現の技法についての理解に課題があります。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 「話すこと・聞くこと」の領域では、日々の学習でお互いの意見を発言する取組の成果が表れていると考えられます。
- 「読むこと」の領域では、文章の構成や表現の特徴、説明文などで日々の成果が見られました。これは朝読書の取組の成果が表れていると考えられます。今後も継続していきます。

《努力を要する所》

- 記述式の問題において、根拠を明らかにして論理的な文章を書くことに課題があります。また、複数の資料を読み取って自分の考えを書く力に課題があります。

今後の具体的な取組

- 漢字を正しく読む力に課題があることから、現在も取り組んでいる「漢字の小テスト」を継続的に実施します。各学年とも既習の漢字も含めて繰り返し練習する環境を整え、日常や文章表記の中で漢字を確実に使用するよう指導します。
- 文章を読んだり、資料を読み取るなどして自分の考えを書く学習活動を意識的に増やします。学年に応じて書くときの条件を難しくしていくなど、学年に応じた「読む・書く」力を育てていきます。

数学に関する調査結果

数学 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 正の数と負の数の加減乗除の計算、方程式の計算などをよく理解しており、「数学的な技能」に優れています。
- 「図形」の領域における「数量や図形などについての知識・理解」に優れています。特に、証明問題の合同条件の使い方や
n角形の内角の和を求めめる式
 $180^\circ \times (n-2)$ をよく理解しています。

《努力を要する所》

- 「数と式」の領域における「数量や図形などについての知識・理解」に努力を要します。百分率の理解不足による誤答が多くありました。具体的には、xから5%増えた数量、xから3%減った数量を、小数で表す事を苦手としています。
- 「関数」の領域における「数量や図形などについての知識・理解」に努力を要します。特に、与えられた表を基に、「…は…の関数である」という形で表現することの理解不足による誤答が多くありました。

数学 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 「数と式」の領域における「数学的な見方や考え方」に優れています。特に、与えられた説明の筋道を読み取り、式を適切に変形し、その説明を完成する力に優れています。
- 「図形」の領域における「数学的な見方や考え方」に優れています。特に、図形の性質を理解し、筋道を立てて証明する力に優れています。

《努力を要する所》

- 「関数」の領域における「数学的な見方や考え方」に努力を要します。特に、与えられたグラフを、事象に即して解釈する力をつけることが必要です。

今後の具体的な取組

- 基礎的・基本的な知識・技能の習得や活用を土台に、言語活動等を取り入れ、数学科の内容に即した思考・判断力を養っていきます。
- 「関数」については、関数の意味や関係を表す表、式、グラフの特徴等を理解させるとともに、文章を読み取り、表現する問題に繰り返し取り組み、定着できるようにします。



理科に関する調査結果

《優れている所》

- 基本的な物質（塩化ナトリウム）の化学式を理解しています。
- 炭酸水素ナトリウムの性質をもとに、実験結果を正しく考察することができます。
- 水溶液の濃度について理解しています。
- 大気の大気圧と雲の形成、露点や湿度など天気の変化に関する理解をもとに、推論することができます。
- 電流と磁界に関する基本的な事項を理解し、無解答率も低くなっています。
- 生物領域では、消化酵素に関する実験結果から正しく推論することができます。

《努力を要する所》

- 化学領域において、溶解度の違いから物質を推論する等、与えられた条件から科学的に考える力に課題があります。
- 二酸化炭素の捕集方法に関する問題に無解答が目立ちました。気体の性質に関する基本的事項、気体の性質をもとに適切に記述する力に課題があります。
- 天気図の読み取り方（風力）が課題です。
- 地学領域である地表と上空の温度差による降水量の違いを探る実験において、実験の目的に沿って対照実験を設定することについて正答率が低くなっていました。
実験において何が原因で何を証明すべきかということを見抜き、実験条件を設定する力を身につけることが課題です。

今後の具体的な取組

- 用語を覚えるだけでなく、状況に応じて使う力を養っていきます。（地学・自然現象についての知識・理解）
- 実験の結果の読み取り、実験結果からの考察する力を養っていきます。
何のために実験をしているのか、なぜそのような実験結果になるのか、普段の授業で実験を行う際には、自分で考えさせる力を養うように取り組みます。（地学、化学・科学的な思考・表現）

生徒質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 「家で、学校の授業の予習をしていますか」という質問に対して46.7%の生徒が「している」「どちらかといえばしている」と肯定的な回答をしていて、県・全国平均をかなり上回る数値です。
- 授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていると思っている生徒は85%と県・全国平均を上回る数値です。
- 授業の内容がよく分かり、生活の中で活用できないか考える、と回答した生徒が多く、意欲的です。

《課題と思われる所》

- 家で予習をする人が多い反面、復習に取り組む生徒の割合が全国平均を10ポイント下回りました。
- 授業の始めに、目標を示されていると思っている生徒が多いにも関わらず、ノートに目標とまとめを書いている生徒の割合が、全国平均より8ポイント下回りました。
- 読書の好きな生徒、原稿用紙2、3枚の感想文、説明文を書くことを苦手とっていない生徒の割合がともに全国の平均を約10ポイント下回りました。

生活について

《よかった所》

- 学級で話し合っ物事を決めていると思っている生徒、学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある生徒の割合が90%ほどで、県・全国平均よりかなり高い数値でした。集団での取組が大切な学校行事などに、積極的に参加している様子が見えます。
- 地域や社会で起こっている事に関心があり、地域や社会をよくするために何をすべきかを考える生徒が多くいます。
- 保護者の方の、学校行事への参加が全国平均に比べ、かなり高いです。

《課題と思われる所》

- 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦してますか」という質問に肯定的な回答をしている生徒の割合が61.5%と県や全国平均よりやや低い数値になっています。
- 「朝食を毎日食べる」「毎日同じ時間に起きる・寝る」など生活習慣に関わる項目で、「できている」「どちらかといえばできている」のポイントが全国平均に比べ少し低く、不規則になっている生徒もいるようです。
- 平日にメール、インターネットを4時間以上する生徒が15.6%と高い数値になっています。

今後の具体的な取組

- 目標をしっかり意識した学習になるように、授業で、めあてやまとめをノートなどに書く時間が取れるように校内で研究します。
- 挑戦する心を育てるために、授業はもちろん、行事や「総合的な学習の時間」「職業講話」「職場体験」「進路学習」において、各個人が達成感を実感し、自信を持てるように、評価やまとめの時間を工夫します。
- 定期テスト前の学習計画表や夏休みや冬休みの計画表で、生徒が振り返りができるように今後も継続した取組を行います。
- 国語の授業だけでなく、他の教科や道徳・特別活動などの時間にも、文章を読む・書く機会を増やします。
- 携帯電話・スマートフォンの利用時間、起床・就寝時間の不規則さ等について、保護者会や学級懇談会で取り上げ、学校と家庭が協力して、より望ましいあり方について今後も情報交換をします。

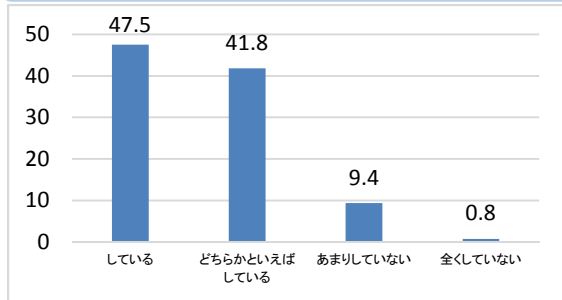
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 同じ時間に起床・就寝する生活習慣を身につけましょう。

同じ時間に起床・就寝、朝ごはんを食べるなど、生活習慣のサポートをお願いします。

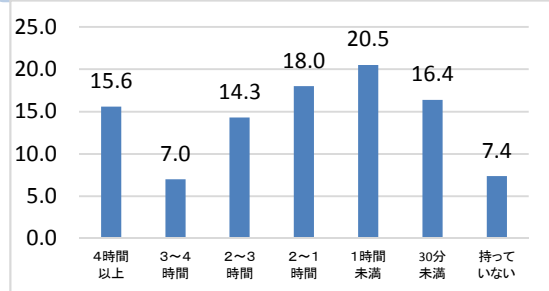
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



2 スマートフォンなどの使用ルールをしっかりと決めましょう。

スマートフォンなどの所持率は9割を超えています。家庭でしっかりとルールを決めましょう。

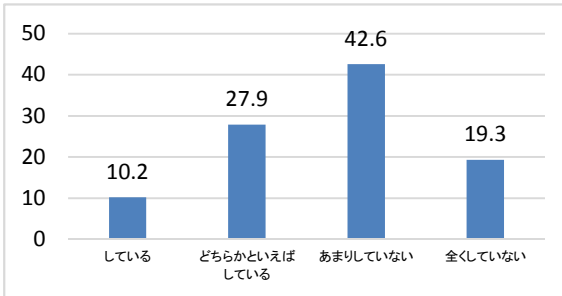
1日どのぐらいメール・インターネットをしますか。



3 学習時間を決めて、毎日継続して取り組みましょう。

計画を立て、確認しながら学習に取り組むことは、生活習慣の改善にも役立ちます。

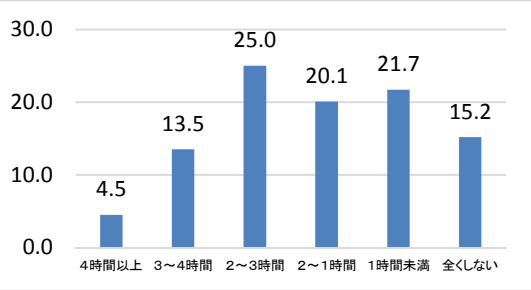
自分で計画を立てて勉強していますか。



4 休日も計画性を持って学習に取り組みましょう。

平日に比べ、休日にまったく学習をしないと回答した人がやや多くいました。

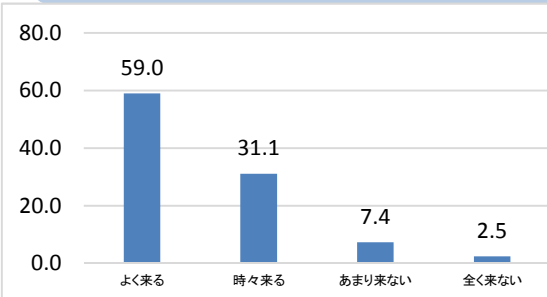
休日にどのぐらい学習をしますか。



5 今後も学校行事などへのご協力をお願いします。

現在も高い参加率です。いろいろな機会にぜひ、学校に足をお運びください。

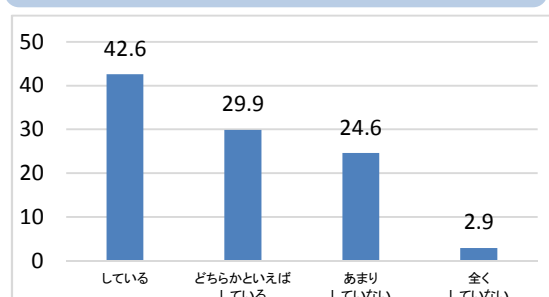
家の人は、学校行事に来ますか。



6 意識して、家族で話し合う機会を設けましょう。

全くしていない生徒はわずかでした。今後も学校の様子などを話し合う機会を設けてください。

家の人と学校の出来事を話しますか



文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

児童・生徒の学習・生活習慣と学力との関係

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数、理科に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて勉強をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の方は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【メディアとの関係】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い



平成27年11月